

三宅島諸島神津島地震における核崩落反応の観察

Nuclear Collapse Observed during Earthquakes near Kouzu-shima Island

松本 高明[1]

Taka-aki Matsumoto[1]

[1] 北大、工、量エネ

[1] Dept. Quantum Energy, Hokkaido Univ.

神津島地震において核崩落反応を観察した。

核崩落反応とは、最近発見された原子核反応である。宇宙では重力により原子核が圧縮され崩壊するが、地震に際して観察された核崩落反応は電気的力により圧縮されて起こる。

測定は、原子核乾板をおよびプラスチック容器に入れた銅板とを用いた。

原子核乾板には微小な球電が捕捉され、それらの核崩落反応が明確に観察された。核崩落反応は実験室にておいて何度も確認しているので、容易に同定することが出来た。

また銅板の観測からは、微小な球電が崩壊するところが記録された。

地震発生の機構について核反応を基礎とする新しい考えを提案する。

三宅島諸島神津島地震において核崩落反応の観察を行った。

観察は原子核乾板とプラスチック容器に入れた銅板とを用いて行った。

原子核乾板は100ミクロンの厚さで、5cm角

の亚克力板に両面塗布されたものである。乾板は普通、原子核乾板の内部において反応生成物を捕捉するのであるが、今回は表面において特殊な微小粒子（マイクロ球電）を捕捉した。これらの特殊な微小粒子は核崩落反応を起こす様子が多数観察出来た。

またプラスチック容器に入れた銅板において、同様の特殊な微小粒子を捕捉した。これらの微小粒子はプラスチック容器内で崩壊する時に、粒子表面の電子構造を反映した模様を記録することに成功した。

今回の核崩落反応の観察により、地震機構について新しい考えを提案する。